

議題 2 - ③ 歯科口腔保健推進計画

第3次しろい健康プランの健康課題について

めざす姿

歯でつくる 食べる楽しみ はつらつ生活

生涯食事をおいしく食べ、はつらつとした生活が送れるように、みんなで歯と口の健康づくりに取り組んでいきます。

1 第2次しろい健康プラン 重点的取り組みの状況

平成28年度から新たに実施した妊婦歯科健診の受診率は、平成30年度の実績が16.3%となっており、県平均23.8%と比較して低く、目標値の達成には至りませんでした。

受診率が低いことの原因としては、市から受診券を配布する時点で歯科健診が受診済みの妊婦がいることを考慮せずに目標値を設定したことが挙げられます。

一方で、同年度から新たに実施した76歳の市民を対象とした後期高齢者歯科口腔健診の受診率は、平成30年度の実績が17.2%となっており、県平均13.6%と比較して高く、平成30年度で目標値を達成しております。

後期高齢者歯科口腔健診は、受診券を個別に通知し、自己負担なしで実施できることや、健診項目に口腔機能の診査が追加されていることで受診率の向上に繋がりました。

また、平成28年度に発足した歯科口腔保健推進ボランティア（しろい歯みがき隊）は、現在12名の登録があり、幼児健診、保育園、小中学校等の歯みがき指導などで歯科衛生士とともに普及啓発活動を行っております。

今後は活動の内容についてボランティアと評価検討しながら、令和2年度末までに目標達成を目指して育成してまいります。

重点的取り組み1	生涯を通じた歯科疾患重症化予防に対する取り組みの強化				
妊娠中の歯科疾患重症化予防のため、妊婦歯科健診を実施します。					
事業計画：妊婦歯科健診受診率					
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度
目標値	25%	25%	30%	30%	35%
実績	12.2%	18.9%	16.3%	—	—
データ(人数)	49/402	84/444	65/398	—	—

重点的取り組み2	生涯を通じてよく噛んで食べることや、口腔機能の向上に向けた歯の喪失防止の取り組みの充実				
生涯を通じた口腔機能の維持改善のため、後期高齢者歯科口腔健診を実施します。					
事業計画：後期高齢者歯科健診受診率					
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度
目標値	10%	10%	15%	15%*	20%
実績	1.2%	15.5%	17.2%	—	—
データ(人数)	8/646	124/799	136/792	—	—

*平成30年度の実績を踏まえ、平成31年度の目標値は15%から20%に変更して実施する。

重点的取り組み3		歯科口腔保健の推進に関する連携体制の構築			
歯科口腔保健推進計画の具体的取り組みを市民と協働で推進していくため、歯科口腔保健推進ボランティア（しろい歯みがき隊）を育成します。					
事業計画：市民と協働で実施する普及啓発活動に参加した市民の数（登録人数）					
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度
目標値	10人	10人	10人	20人	20人
実績	6人	6人	9人	12人	—

2 第2次しろい健康プラン めざそう値の達成状況

第2次プランの歯科口腔保健推進計画では、5つの施策の方向性に9つの具体的な取り組み、合計17のめざそう値を設定し、計画を推進してきました。その結果は次のとおりです。表中の達成状況は、策定時の値と現状値の差が1%未満の場合は「変わらない」としています。

現状15項目中、「達成」は6項目、「改善」は5項目、「変わらない」は1項目、「悪化」は2項目、「評価困難」は1項目でした。

「1-(2)自ら進んで歯科口腔保健に関心を持ち、むし歯や歯周病予防に取り組む意識の向上」については達成傾向にあります。また、「3-(1)生涯を通じてよく噛んで食べることや、口腔機能の向上に向けた歯の喪失防止の取り組みの充実」、「5-(1)定期歯科健診受診率向上に向けた取り組みの充実」については改善や悪化となった項目が多く、目標を達成していないことから、今後もそれぞれの取り組みを充実させていく必要があります。

具体的取り組みNo	項目	策定時 (平成26年度)	現状値 平成31年度 (*は平成30年度)	策定時のめざそう値	達成状況
1-(1)	8020運動の言葉と意味がわかる人の割合（20歳以上）	38.4%	43.8%	45.0%以上	改善
	1歳6か月で間食として甘味食品・飲料を1日3回以上飲食する習慣を持つ人の割合	8.9%	10.0%*	5.0%以下	悪化*
1-(2)	中学1年生の昼食後の歯みがき実施生徒の割合	19.4%	調査中	30.0%以上	-
	むし歯予防や歯周病予防効果のある歯みがき剤を使用する人の割合（20歳以上）	23.6%	36.1%	30.0%以上	達成
	1歳6か月児で毎日保護者が仕上げみがきをする習慣のある人の割合	85.8%	90.2%*	90.0%以上	達成*
2-(1)	3歳児でむし歯のない人の割合	83.1%	82.2%*	90.0%以上	改善*
	12歳児のむし歯本数	1.6本	0.92本*	1.2本以下	達成*
	歯周疾患検診受診率	3.0%	2.9%*	5.0%以上	変わらない
2-(2)	中学生で歯肉に炎症所見を有する人の割合	36.5%	20.7%*	25.0%以下	達成*
	誤嚥性肺炎の言葉と意味がわかる人の割合（20歳以上）	52.5%	70.9%	60.0%以上	達成
	40歳で進行した歯周炎を有する人の割合	50.0%	9.1%*	35.0%以下	達成*
3-(1)	3歳児でよくかんで食べていると思う保護者の割合	91.7%	89.8%*	93.0%以上	悪化*
	中学1年生でよく噛んで食べていると思う生徒の割合	54.2%	調査中	60.0%以上	-
	硬い食べ物でも普通に噛んで食べることができる人の割合（20歳以上）	61.3%	62.4%	65.0%以上	改善
4-(2)	歯科医療が受けられない難病患者の割合	2.4%	調査なし	1.0%以下	評価困難
5-(1)	過去1年間に歯科健診を受診した人の割合（20歳以上）	50.8%	57.7%	60.0%以上	改善
	かかりつけ歯科医がある人の割合（20歳以上）	59.3%	68.5%	70.0%以上	改善

- ・現状値が30年度の実績値については、達成状況の数値に「*」をつけています。
- ・難病罹患者への調査項目変更により、現状値の把握が困難となった項目について「評価困難」としています。

3 現状（白井市民の「健康」に関するアンケート調査結果及び事業実績より）

○普及啓発について

語句の認知度を確認する項目では、8020運動が43.8%、誤嚥性肺炎の認知度が70.9%で、平成26年度調査の8020運動38.4%、誤嚥性肺炎52.5%からいずれも認知度が増加しました。

むし歯や歯周病予防に効果的な方法だと思えるものについては、「歯みがき」が94.0%で最も高く、次いで「歯の定期健診」、「歯石除去」、「デンタルフロス・歯間ブラシの使用」、「むし歯や歯周病予防効果のある歯みがき剤の使用」の順となっており、平成26年度調査の「歯みがき」90.5%をはじめ、全ての項目で増加しました。

○一次予防について

むし歯や歯周病予防のために実践していることは、「歯みがき」が93.5%と最も高く、次いで「デンタルフロス・歯間ブラシの使用」、「歯の定期健診」、「むし歯や歯周病予防効果のある歯みがき剤の使用」、「歯石除去」の順となっており、平成26年調査の「歯みがき」91.8%をはじめ、全ての項目で増加しました。

昼食後の歯みがきの実施については、高校生の調査で10.6%と低く、20歳以上の調査を含めて最も低い値となっています。

○二次予防について

市の3歳児のむし歯有病者率は、平成30年度の実績で17.8%となっており、県平均13.0%と比べて高い値となっています。

市の歯周疾患検診の受診率は、平成31年度の実績で3.0%となっており、近年3.0%前後で推移している状況が続いています。また、市の歯周疾患検診の要精密検査を必要とする人の割合は、平成30年度の実績は78.3%でしたが、平成31年度の実績は57.3%に減少しました。

80歳以上の歯の平均本数は、平成30年度の実績で男性が19.4本、女性が15.0本となっており、平成26年調査の男性14.7本、女性が12.4本に比べて男女ともに増加しました。

食べ物を噛む状態で「あまりに噛めないので食べ物が限られる人」、「噛んで食べることができない人」の80歳以上の割合は8.3%となっており、平成26年調査の17.9%から減少しました。

○歯科医療体制について

過去1年間で歯の定期健診を受けている人の割合は57.7%となっており、平成26年度調査の50.8%から増加しました。

市内の歯科医院数については、平成30年度は29施設となっており、平成26年度の27施設から増加しています。

参考：国が今後取り組むべき課題としているもの（健康寿命延伸プラン 抜粋）

目標 2040年までに健康寿命を男女ともに3年以上延伸し（2016年比）、75歳以上とする

- ①次世代を含めたすべての人の健やかな生活習慣形成等
- ②疾病予防・重症化予防
- ③介護予防・フレイル対策・認知症予防

○歯科口腔保健に関する取り組み

1 乳幼児期・学童期の健康情報の利活用の推進

実施指標 ①マイナーポータルを活用した健康情報の提供

成果指標 ①むし歯のない3歳児の割合を、2024年度までに90.0%とする。

2 歯科健診や保健指導の充実を図り、歯科医療機関への受診を促すなど、全身の健康にもつながる歯周病等の歯科疾患対策の強化

実施指標

- ①40歳代、60歳代における進行した歯周炎を有する人の割合を、2022年度までに40歳代25%以下、60歳代45%以下とする。
- ②40歳、60歳の未処置歯数を有する人の割合を、2022年度までに40歳10%以下、60歳10%以下とする。
- ③過去1年間に歯科健診を受診した人の割合を、2022年度までに65%とする。

成果指標

- ①60歳代における咀嚼良好者の割合を、2022年度までに80%以上とする。

4 健康課題からみえた市の取り組み（第2次計画から第3次計画案）

1 歯科口腔保健の意義と生活習慣の改善

（1）歯科口腔保健の正しい知識の普及

【第3次計画案 健康課題からみえた市の取り組み】

第2次プランの時は、8020運動の認知度が低いことを課題としていました。8020運動の認知度は高まっていますが、男性や20歳から40歳代の女性の認知度が低いことから、6024運動*や、千葉県歯科医師会が推奨する8029運動*の普及を含めて今後も幼児期から歯科口腔保健の正しい知識の普及啓発に積極的に取り組む必要があります。

*6024（ロクマル ニイイヨン）運動：「60歳で24本以上自分の歯を保とうという運動」

*8029（ハチマル ニク）運動：「80歳になっても肉（タンパク質）を摂取して元気な高齢者を増やしていこう」

（2）自ら進んで歯科口腔保健に関心を持ち、むし歯や歯周病予防に取り組む意識の向上

【第3次計画案 健康課題からみえた市の取り組み】

第2次プランの時は、むし歯や歯周病予防に意識して取り組む人が少ないことを課題としていました。今回は、デンタルフロスや歯間ブラシの使用、むし歯予防に効果のある歯みがき剤の使用など、20歳以上の日常の歯みがき等の実施状況は平成26年度調査よりも増加しました。一方で、高校生のデンタルフロスや歯間ブラシの使用は17.4%、昼食後の歯みがきの実施が10.6%と低い状況にあります。軽度の歯肉炎は歯みがきで改善が期待できることから、幼児期及び学齢期から予防への関心を高め、生活習慣の改善やセルフケアの実践などの取り組みや環境整備を積極的に行う必要があります。

2 歯科疾患の予防

（1）生涯を通じた歯科疾患重症化予防に対する取り組みの強化

【第3次計画案 健康課題からみえた市の取り組み】

第2次プランの時は、成人期における歯科健診の受診率が低いことを課題としていました。今回は、幼児健診及び後期高齢者歯科口腔健診の受診率は県と比較すると高い状況にあります。妊婦歯科健診の受診率は16.3%、歯周疾患検診の受診率は3.0%と低く、成人期の歯肉炎・歯周炎を有する人の割合についても近年変化が見られない状況です。歯科健診に関心のない人へのアプローチのほか、医療機関等と連携した周知啓発の実施など、歯科健診受診率向上への取り組みの充実を図る必要があります。

(2) 歯科疾患と全身の健康のかかわりについての普及啓発

【第3次計画案 健康課題からみえた市の取り組み】

第2次プランの時は、歯周病と全身の健康のかかわりについての普及が不足していることを課題としていました。

今回は、誤嚥性肺炎の言葉と意味がわかる人の割合は70.9%と平成26年度調査よりも増加しました。

近年、全身の健康にもつながる歯周病等の歯科疾患対策の強化が図られる中で、保険者における歯科健診や保健指導の取り組みが進んでいることから、今後も関係団体等とともに歯科疾患対策の取り組みの推進を図る必要があります。

また、児童虐待を受けている子どもの早期発見については、迅速かつ組織的な対応が求められることから、引き続き関係団体等との速やかな連携を図る必要があります。

3 生活の質の向上に向けた口腔機能の維持獲得

(1) 生涯を通じてよく噛んで食べることや、口腔機能の向上に向けた歯の喪失防止の取り組みの充実

【第3次計画案 健康課題からみえた市の取り組み】

第2次プランの時は、80歳以上で食べ物を噛む状態に支障をきたしている人が多くいることを課題としていました。

今回は、3歳児でよく噛んで食べていると思う保護者の割合は、平成30年度の実績で89.8%と平成26年度調査よりも低下しました。また80歳以上で食べ物を噛む状態に支障をきたしている人については8.3%で、平成26年度調査よりも低下しています。

生涯を通じて口腔機能が維持できるよう、幼児期からよく噛んで食べることの大切さの普及や、成人・高齢期の集団での口腔機能向上に関するアプローチなど、歯の喪失防止に向けた支援に引き続き取り組む必要があります。

4 定期的に歯科健診または歯科医療を受けることが困難な人に対する歯科口腔保健

(1) 障害を有する人、介護を必要とする人などの定期歯科健診受診機会の実態把握

【第3次計画案 健康課題からみえた市の取り組み】

第2次プランの時は、障害を有する人、介護を必要とする人などの定期歯科健診受診状況が把握できていないことを課題としていました。

平成30年度に介護施設等における施設入所者の定期的な歯科健診受診機会の提供に関する調査を実施したところ、施設入所者への歯科健診受診体制は概ね整っていることがわかりました。しかしながら、施設では口腔ケアを実施できる職員の不足が課題となっていることから、施設職員に対する口腔ケアの実践研修等、歯科技術的な支援の提供について検討する必要があります。

(2) 障害を有する人、介護を必要とする人などに対する歯科医療情報の提供の充実

【第3次計画案 健康課題からみえた市の取り組み】

第2次プランの時は、障害を有する人、介護を必要とする人などに対する歯科医療機関の情報不足を課題としていました。

近年、市内歯科医院における訪問歯科診療の実施機関が増えており、歯科医院に通院困難な人に対する歯科医療サービスの体制は整いつつあります。

障害を有する児への歯科治療に関する情報発信や、介護を必要とする人などが必要時に歯科医療サービスが受けられるように、関係機関と協力しながら引き続き取り組むことが必要です。

5 歯科口腔保健を推進するために必要な社会環境の整備

(1) 定期歯科健診受診率向上に向けた取り組みの充実

【第3次計画案 健康課題からみえた市の取り組み】

第2次プランの時は、定期歯科健診受診率の低さを課題としていました。

今回は、過去1年間で歯科健診を受診した人は57.7%、かかりつけ歯科医がある人は68.5%で、いずれも平成26年度調査から増加しました。

しかしながら、かかりつけ歯科医がある3歳児の割合は、平成30年度の実績は39.3%で、国の平均48.8%と比較すると低くなっています。また、歯の定期健診を受けている高校生の割合は25.2%と低い状況にあることを踏まえ、幼児期、学齢期から定期歯科健診の必要性の理解と、かかりつけ歯科医定着に向けた支援を行う必要があります。

また、自分の健康に関する悩みや不安で「歯の健康」と回答した人が20歳以上で31.3%となっており、平成26年度調査の26.5%から増加しました。近年注目されている口腔がん等の早期発見にもつながることから、成人期以降のかかりつけ歯科医の定着及び定期歯科健診受診率向上に向けて引き続き取り組む必要があります。

(2) 歯科口腔保健の推進に関する連携体制の構築

【第3次計画案 健康課題からみえた市の取り組み】

第2次プランの時は、市の歯科口腔保健を普及推進するための組織連携体制の整備を課題としていました。

平成28年度新たに組織した歯科口腔保健推進ボランティア（しろい歯みがき隊）は、幼児健診、保育園、小中学校への歯みがき指導の場で活躍しており、歯みがきの大切さの理解や、積極的に歯みがきに取り組む児童生徒の増加につながることから、今後も歯科口腔保健の普及啓発のため、引き続き育成していくことが必要です。

また、近年県内でも自然災害などに見舞われていることを踏まえ、災害時における迅速な歯科口腔保健サービスを提供するための連携強化及び体制確保についての検討が必要となっています。